

【研究テーマ】
コミュニティ・スクールの発展と「自己有用感」の醸成

1 グループ校の概要

清水一中(学級数11,生徒数307,教職員数24)
 清水辻小(学級数12,児童数281,教職員数31) 清水江尻小(学級数14,児童数363,教職員数35)

2 研究の目的

一中グループの子どもたちは、規範意識が高く、素直でまじめだという強みをもつ。その一方で、自分で判断して行動したり、思いを表に出したりすることに対する抵抗感が強いということが、学校・保護者・地域の共通の認識である。そんな辻・江尻の子どもたちが一歩踏み出せるようになるためには、「自己有用感」を高めることが必要だと考える。「人を思いやる力」「自分で解決する力」「人と対話する力」の三つの力の育成を軸とし、保護者や地域の協力を得ながら活動を重ね、自己有用感の醸成を図っていく。

3 取組内容

◎自己有用感醸成のための具体的な取組
 9年間を「基礎期」「充実期」「発展期」の3段階に分け、それぞれの発達段階に応じて、具体的な目標と手立てを検討。自己有用感の醸成という視点から活動を整理し、「三つの力の育成」を全職員で意識していく。

【軸となる取組1】「人と対話する力の育成」(特別活動委員会)

- ①児童生徒会の定期開催
 「あいさつを一中学区の自慢に」という共通の思いをもち、3校の児童・生徒が集まって具体策を検討、各校で実践する。
- ②小中交流あいさつ活動
 毎週、中学生が小学校であいさつ活動を行う。
 →ペットボトルキャップ回収にも発展。
 その他、小・中、小・小で一緒にできる活動を模索中。

【軸となる取組2】「自分で解決する力の育成」(学習委員会)

- ①「学習の心得5項目」の共通実践
 授業に臨む姿勢について、小中で共通の指導をする。
- ②小中授業研究交流
 教職員が授業を見合い、児童・生徒の実態を把握する。
 グループ校共通の課題の発見・実感につながった。
- ③「しずおか学(防災)」の取組
 地域の力を借りて、防災について専門的に学ぶ機会を設ける。

【軸となる取組3】「人を思いやる力の育成」(生活委員会)

- ①言葉に関する授業
 道徳やSSTを通して、言葉について考えさせる。
- ②「いい言葉の日」の設定
 月1回、3校共通で言葉について考える日を設定した。
 保護者の理解・協力も得て、習慣化している。

●令和3年度 清水一中グループ小中一貫教育 自己有用感醸成のための具体的な取組と評価

取組	基礎期	充実期	発展期	評価	取組の今後の展望	
学校中心課題の推進	1 特別活動時間 2 本校行事活動 3 5月行事活動 4 6月の行事活動 5 7月の行事活動	1 特別活動時間 2 本校行事活動 3 5月行事活動 4 6月の行事活動 5 7月の行事活動	1 特別活動時間 2 本校行事活動 3 5月行事活動 4 6月の行事活動 5 7月の行事活動	1 特別活動時間 2 本校行事活動 3 5月行事活動 4 6月の行事活動 5 7月の行事活動	1 特別活動時間 2 本校行事活動 3 5月行事活動 4 6月の行事活動 5 7月の行事活動	1 特別活動時間 2 本校行事活動 3 5月行事活動 4 6月の行事活動 5 7月の行事活動
学校連携活動の推進	1 特別活動時間 2 本校行事活動 3 5月行事活動 4 6月の行事活動 5 7月の行事活動	1 特別活動時間 2 本校行事活動 3 5月行事活動 4 6月の行事活動 5 7月の行事活動	1 特別活動時間 2 本校行事活動 3 5月行事活動 4 6月の行事活動 5 7月の行事活動	1 特別活動時間 2 本校行事活動 3 5月行事活動 4 6月の行事活動 5 7月の行事活動	1 特別活動時間 2 本校行事活動 3 5月行事活動 4 6月の行事活動 5 7月の行事活動	1 特別活動時間 2 本校行事活動 3 5月行事活動 4 6月の行事活動 5 7月の行事活動
地域連携活動の推進	1 特別活動時間 2 本校行事活動 3 5月行事活動 4 6月の行事活動 5 7月の行事活動	1 特別活動時間 2 本校行事活動 3 5月行事活動 4 6月の行事活動 5 7月の行事活動	1 特別活動時間 2 本校行事活動 3 5月行事活動 4 6月の行事活動 5 7月の行事活動	1 特別活動時間 2 本校行事活動 3 5月行事活動 4 6月の行事活動 5 7月の行事活動	1 特別活動時間 2 本校行事活動 3 5月行事活動 4 6月の行事活動 5 7月の行事活動	1 特別活動時間 2 本校行事活動 3 5月行事活動 4 6月の行事活動 5 7月の行事活動
保護者・地域との連携	1 特別活動時間 2 本校行事活動 3 5月行事活動 4 6月の行事活動 5 7月の行事活動	1 特別活動時間 2 本校行事活動 3 5月行事活動 4 6月の行事活動 5 7月の行事活動	1 特別活動時間 2 本校行事活動 3 5月行事活動 4 6月の行事活動 5 7月の行事活動	1 特別活動時間 2 本校行事活動 3 5月行事活動 4 6月の行事活動 5 7月の行事活動	1 特別活動時間 2 本校行事活動 3 5月行事活動 4 6月の行事活動 5 7月の行事活動	1 特別活動時間 2 本校行事活動 3 5月行事活動 4 6月の行事活動 5 7月の行事活動



<児童生徒会>



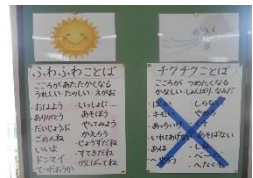
<合同あいさつ活動・Pキャップ回収>



<授業研究交流>



<しずおか学(防災)>



<言葉に関する授業掲示>



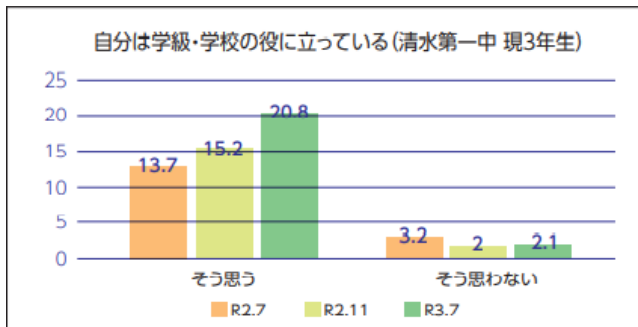
<ロールプレイスキルトレーン>

4 考察（成果と課題）

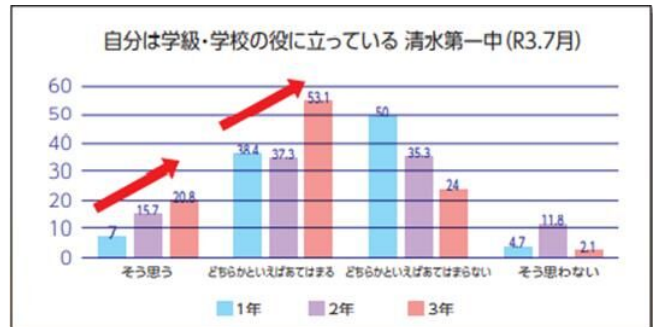
【成果】

①子どもたちの意識の向上・日常の行動の変化

小中で同じ指導を続けることにより、少しずつ、児童・生徒の行動が変わってきている。特にあいさつについては、その変化を地域の方にも認めていただき、子どもたちも成果を実感しつつある。



清水一中現3年生の「自分は他の人の役に立っていると思う」という項目に対する回答。昨年度から本年度の1年間で、13.7%から20.8%へと、7%上昇した。



「自分は他の人の役に立っていると思う」という項目に対する、清水一中の1年生から3年生までの結果を比較。「そう思う」と回答した生徒の割合は、学年が上がるにつれて高くなった。

この2年間の取組が、子どもたちの「自己有用感」を高めることに繋がっていると考えられる。



②地域人材バンクの作成、学校間の情報交換

小学校での取組を参考にしながら、中学の教育活動にも地域の方々に入っていただくことを開始。3校の情報交換や人材バンクへの登録を充実させ、地域の力を借りる体制を整えていきたい。

③教職員間に、連携を大切にする意識の芽生え

校内に小中一貫の視点が浸透。日常的に、小・中、小・小の連携を模索する姿勢が生まれた。毎月「一中グループの日」に3校の職員が集まり、活動の進捗状況や今後の取組について、確認・検討をすることも定着した。

【課題】

①3校共通の学校評価の効果的な在り方

意味のある学校評価にするため、その方法について、今後も検討を続けていく必要がある。

②児童・生徒交流のための時間確保

教育課程を工夫し、3校の情報交換や取組の検討をする時間を保障していく。「一中グループの日」の更なる充実を図る。

③学校と地域をつなぐ人材の確保

グループ校と地域を結ぶコーディネータ役となる職員を確保し、各校の連携・情報交換をよりスムーズにしたい。

*このような具体的な課題が見えてきたことは、大きな成果だとも考えている。

5 今後の方向性

一つ一つの活動について、「自己有用感の醸成」という観点から検証し直していく。これまでの取組を整理し、精選していくことで、より意味のある、そして、無理のない小中一貫教育を目指す。

地域の方々を大いに活用させていただき、今後とも、「地域とともにある学校」、「地域の中心となる学校」を目標としていく。